初教 KAWARABAN
かわらばん
第7号
2005.7.21
広島文教女子大学
教育学会
発行

明日に向かって　羽ばたけ初教

学科長　金舛　俊乍

1981年（昭和56年）、初代学長武田ミキ先生によって「教師としての素養を身につけ、実践力のある逞しい教師の育成」を目指して初等教育学科が創設された。以来、本学科は輝かしい25年の歴史を刻んできた。本学科の卒業生は1750余名。その多くは小学校、幼稚園、保育園で教壇に立ち活躍している。在籍学生は432名。北は北海道から、南は沖縄まで初等教育に携わる教師を目指して学びを深めている。頼もしい限りである。

この間、一貫して培われた初教の伝統は何か。それは、ミキ先生の教育信条である「為せば成る」という言葉で表現される。目標に向かってひたむきに努力している姿、お互いが支え合い、喜び・苦しみを共有して学ぶ姿、それが初教で学ぶ学生の伝統的な風土であり現在も炎々と受け継がれている。

5月12日のスポーツデイ。1年生が、2年生が、3年生が、そして4年生が優勝の栄冠。団結力と不屈の精神の結果か。最後の種目の4年生の「長縄部門」の決勝戦。初教の仲間の必死の応援、選手の必死の頑張り、涙の優勝。まさに「為せば成る」の1コマである。

現在、4年生諸君は就職戦線に向かって日夜努力を積み重ねている。2号館は夜遅くまで電気がついている。自分の目標に向かって努力する姿は美しい。その姿はみんなに感動と勇気とやる気を与えてくれる。初教が25年・四半世紀の区切りの年を迎えた現在、「明日に向かって、さらに羽ばたけ初教」と祈りたい。

私たち頑張ってます!!

旭幼稚園教諭　永見　千尋さん（初教20期生）

文教を卒業し、「先生」と呼ばれるようになって、丸1年が過ぎました。

私の幼稚園は、総園児数369名の大きな幼稚園です。広い園庭には、春には桜が咲き、夏には泰山木が大きな花をつけ、秋にはドングリがたくさん落ちてきます。うさぎやインコ、ハトに蛙、そしてガアガアとがちょうが鳴き声を上げています。山口線沿いにあるため、毎日SLを見ることもできます。

去年1年間は、全体指導として、年長3クラス、年中1クラスの補助をしていました。大学生活を懐かしみながら、子どもたちと汗だくになって園庭をかけまわって遊んでいました。毎日が新しいことの連続で、手探りをしながらの1年でした。

そして今年＝年中きく組、32名の担任をしています。全体指導とは全く違い、日々自分で保育をすることの難しさを痛感しています。

自分の不甲斐なさに涙をすることもしばしば…。沈む心と体で幼稚園に向かいます。それでも子どもたちが「ちひろせんせーっ!!」と笑顔で呼んでくれると、あぁ、今日も頑張ろう!と思えます。子どもたちやまわりの先生方に励まされ、教えられながら毎日を過ごしています。

「日々是勉強」。これは大学時代、友だちとの合言葉でした。みんな覚えているかなぁ。まだまだこれからの私ですが、反省反省の毎日を過ごしながら、1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。だってやっぱり子どもたちが大好きだから!!

また、文教で知り合った友だちも私にとっての宝物です。4年間を共に過ごし、遊んだり、悩んだり、勉強を一緒にした仲間。大学を卒業し、みんな離ればなれになってしまったけれど、メールで近況報告をしたり、会って悩みを語り合ったり。仲間との時間も、私にとっては大きな支えです。今、近いうちに文教へ遊びに行こうと計画中。先生＝あの頃のように私たちを迎え入れて下さいね＝私たち頑張ってます＝

面白ゼミ紹介　岡　利道ゼミ

レポーター　初等教育学科3年生　宮本　智子（国語専修）

みなさん、こんにちは。今回は赴任されて10年間文教女子大学一の癒し系、岡利道先生の取材をしてきました。

私たち国ゼミのメンバーはとてもにぎやかで楽しくゼミを行っています。そんなにぎやかな私たちを岡先生は優しい瞳でいつも見守ってくれています。その瞳に私たちは癒されています。岡先生の授業をうけている人なら、私たちが癒されている風景が目に浮かぶのではないでしょうか。しかし、癒されるだけでなく、その瞳の奥には厳しさもあるのです。

2年のゼミでは、自分たちで調べてきたことをまとめて発表するという形式をとります。初めは難しく感じますが、あえて行うことにより授業の運営能力アップにつながります。3年では模擬授業を行い、実践力アップを目指しています。どちらも私たちの力になるような課題で、将来に向けて背中を押してくださいます。

そんな国ゼミは懇会が恒例になっていたりと、みんなで集まることが大好きです。新歓ではゲームやクイズで盛り上がります。1番の目玉はなんといっても岡先生のスペシャル企画です。毎年何か一つお店を出し、私たちに振る舞ってくれます。今年は出雲そば（奥さんの実家から頂いた岩のり付き!!）をごちそうになりました。ちなみに去年はコーヒー店のマスターでした。来年は何の企画がとびだすか楽しみです。

最後に岡先生からエールを頂きましたので紹介します。

＜卒業生へ＞「色々言いたいけれど、1つだけ言わせてください。直接で頑張っている人へ、あきらめずに我道を進んでください。いつまでも応援しています。」

＜現役生へ＞「よく学び、よく学び、よく遊んでください。2:1ですよ。あなたたちは初教の伝統をよく守ってくれています。これからも頑んだよ。」

みなさんも、悩んだ時など癒されたいときは2号館6Fの岡研究室へ足を運んでみてください。

新人登場

宗森加代子先生

レポーター　初等教育学科1年　田口　陽子
初等教育学科4年　石谷　桂子

みなさんこんにちは。この4月から初等教育学科の「頼れるお姉さん」になってくれている、宗森先生を取材してきました。宗森先生の人なつこい笑顔に、すでに何人も癒されているのではないですか？宗森先生は、ついこの前まで私たちと同じ、初等教育学科の学生だったんですよ。

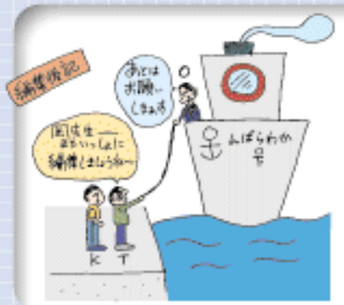
まず宗森先生は、「先生になったことで、今まで話さなかった人と話をすることができる。」と、とても楽しそうに話をしてくださいました。「学生とのやりとりや、自分が学生のときには見えなかった先生のおもしろさが、たくさん見えてくる。」と、うれしそうに話しておられたのがとても印象的です。実際に宗森先生の取材をしていて、私たちもとても楽しくできました。

宗森先生は、実は人見知りをしてしまうのだそうです。私たちは取材をしている中で、そんなことを一つも感じませんでした。むしろ、人を引きつける魅力があります。宗森先生の人を引きつける魅力は、学生なんだろうと思いながら、取材を続けていくことにしました。そうすると、宗森先生の魅力は、学生時代の経験から来ているのだということを感じました。宗森先生は学生時代に、とてもたくさんのボランティア活動やアルバイトの経験をしたそうです。例えば、お弁当売りやレジ打ち、図書館の仕事や神社の巫女さんなどです。「このような経験の中で、広い視野をもつことができた。」とおっしゃっていました。初等教育学科には、将来子どもたちと関わりを持つことを目指している人たちが集まって来ています。しかし学校の外に出て、子どもたちと全く関係のない仕事をしている人たちと関わりを持つことで、より広い見方をする事ができるようになったと言っておられました。また、人との出会いはとても楽しいものだ、ということを話してくださいました。自分が今まで出会ったことのない人たちと出会い、そこから学んでいくことができることは、とても幸せなことだと話しておられました。

「学生にどんなアドバイスをしていただけますか？」という質問をすると、「学校内や、学校外でどんどん活動していってほしい。特に、ボランティア活動やアルバイトをどんどんして、自分を磨いていってほしい。」という言葉をいただきました。

宗森先生は、私たちと年齢も近く、とても親身になって話を聞いてくれる先生です。宗森先生も、「もっと学生と話しがしたい。」と言っておられました。2号館4階の宗森先生の部屋をぜひ訪れてみてください。

平成17年度
初教スタッフ（全十名）
新校　勝／有馬北D志／稲田ひとみ
浴野雅子／岡　利道／金舛俊乍
川西正行／佐伯育郎／新宅雅和
杉山浩之／田頭聡精／徳本達夫
原田正治／宗森加代子／村上典章
山下美佐子／吉田裕午／善本桂子
※前年度異動・退任等
奥　雅雄（情報教育センター）
黒柳宏義（退職）
中島雪絵（総合支援課）

「初教かわらばん」編集スタッフ
田頭聡精／川西正行／善本桂子
河村裕子／宗森加代子／山田悦子
中島雪絵／石谷桂子／岡本理郎
清田公芙／宮本智子／田口陽子

「初教かわらばん」投稿のご案内
次の要領で原稿をお寄せ下さい。
掲載分につきましては、簿謝進呈。
○文量　八百字程度
○写真　一～二枚
○送り先　〒七三二－〇二九五
広島市安佐北区可部東二－二－二
広島文教女子大学　川西正行あて
または
kawaraban@bunkyo.ac.jp